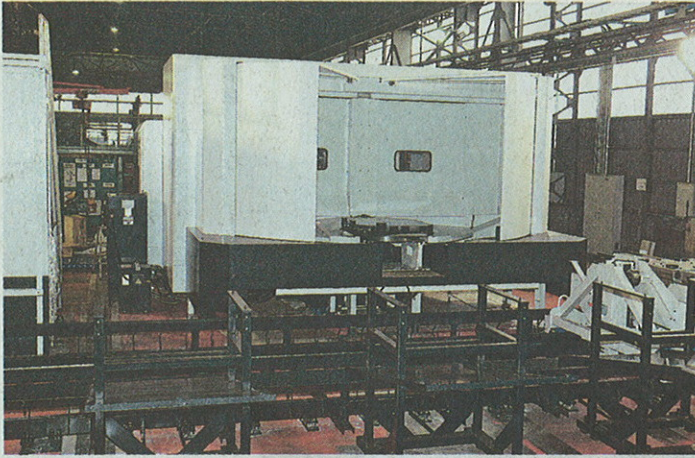


丸栄製作所

新マシンニングセンター導入

中・大型建機向け対応



建設機械先端機器メーカーの小杉、今牧繁社長は、中・丸栄製作所(射水市鷺塚)の大型建設機械向けの部品加工

見込んでいる。

建設機械市場は、国内のインフラ整備に伴う需要増が見込めず、小型機械が振るわない一方、中国やロシアなどで資源開発が活発なことから、中・大型機械のニーズが高まっている。

同社は重量十ー二十トの機械向けの部品を主力としているが、今後、需要が減少する可能性がある。機械の大型化傾向にも対応し、幅広い部品加工を受け入れられる体制づくりを進めている。昨年、最新鋭の溶接ロボット六台を導入して生産能力を高めたが、機械加工分野の整備が残っていた。

中・大型建設機械向けの部品加工用に導入したマシンニングセンターの一部

今回導入したMCは、土砂などを採掘するショベルとアームをつなぐフレット部分の穴開け加工に活用する。これまででは穴の粗削りと仕上げ工程に、二つの専用機を活用してきたが、これを一工程に

短縮。手動だった作業をコンピュータ制御で自動化することで、スピードアップと省人化につなげられる。

投資額は約一億二千万円。十月下旬から稼働させる。